

川下の風景①⑥

～人生は川の流れるように～

米津 達也

【何ともならない言い訳から】

連載開始後、初めて原稿締め切りを忘れた。うっかり、というか、すっぽり忘れていたわけで、まずはダラダラと言い訳じみた近況から語ることになる。

普段、私は旅をしない。旅行好きというわけでもないし、出不精というわけでもないが、観光地に興味も沸かないし、家族にその習慣も無いので行かなかただけなのだ。子どもが上京して以降、なんやかんやで年に2～3回東京近郊に行く機会が増えた。普段歩かない街を歩き、普段聞きなれない言葉のイントネーションを聴く。原稿締め切りを忘れていた要因のひとつが、この子どもの引っ越し作業だった。仕事の都合で都内から千葉県内に引っ越すという。都内の下町の雰囲気から一転、東京湾に近いその街は巨大な団地が立ち並ぶ。都内へのベッドタウンであるから、建物は古くなっても変わらず子育て世代が多いようで、自転車の前後に幼子を載せた親世代が頻繁に行き来する。大きく、整備された公園が多く、秋の青空の下、たくさんの子どもたちが駆け回っている風景は、都内の雰囲気とは異なる匂いが漂う。これも職業柄なのか、街で暮らす高齢者の姿にも目を向けるし、介護事業所の送迎車等も気になる。不動産屋の前を通れば、分譲団地の値段を確認し、戸建て住宅の土地の大きさや車のラインナップなども横目で眺める。都内では難しい暮らしが、ここでは実現できるのだろうか、時代は違えど、割に富裕層が多い街なのだろう。駅前のショッピングモールは有名な飲食店で埋まっている。20代の若者が多いと思ったら、徒歩圏内に大学があるらしい。東京湾は磯の香りがしないのだな、と思いながら引っ越し作業の傍ら、子どもが新たに暮らす街並みを眺める。

ふたつ目の言い訳を。下の子が大学受験となり、こちらは三河湾の近くまで車で送り届けることになった。東京湾から一転、海水浴シーズンを終えた港町は閑散としていて、天気の良い日もあって寂寥感が漂う。試験時間の間、どこか登れる山はないかと検索してみたものの、こんな日に滑落したら縁起でもない、と言われて止めておいた。私はどんな観光地よりも、山なのだ。折角なので港町を歩いた。温泉街というけど、温泉の匂いがしない。店じまいを終えた海の家骨組みだけが残された海岸沿いを歩く。多くの釣り人や、写真映えるスポットではライダーたちが愛車の写真に熱心だ。三河湾を多くのタンカーが行き交う。歩道が整備された海岸沿いの岩稜を越えて更に歩くと、観光地からは見えない場所で廃業したホテルの廃墟あり、引き潮で岩の窪みに残された小魚が泳いでいる。この辺りの岩稜を名古屋城の石垣に転用したというのも興味深い。

こんな短期間で、ふたつの街から海を眺める旅の機会があったのも、早々に巣立ちを決めた子どもたちのおかげだ。

【日々の日記から①】

先日の事例検討会の話題であった「ケアマネに上
がってくるのは要支援ばかり」という話。

10 数年に渡る介護予防思想が今の高齢者に浸透
し、健康寿命が延びているのであればその効果が出ている。一方、先進医学の発展に予防医学、こ

れらも功を奏しているのであれば、一概に高齢者の病院好きを非難するわけにもいかない。社会環境的にはどうだろう。団塊の世代、これまでの戦後世代とは異なり、高度経済成長期の恩恵を受け、生活に関する余裕が生まれる。インフォーマルな社会資源との接点も持ちやすく、スポーツジム系のサービスにもアクセスしやすい。スマホで簡単に情報は手に入るし、それを共有するデジタルコミュニティの発展にも着目する。従来のコミュニティではない。お寺では墓終いが進み、檀家離れが加速。滋賀南部の街では自治会加入率は50%を切るところも多いようだ。

そういった変化の中で、従来の相談機能の基軸とされていた社会福祉協議会や地域包括支援センターの役割が宙に浮き始める。思った以上に浸透しなかったのは、コンビニエンスストアに付随するケアマネジャーというビジネス展開。逆に気軽に通える「隙間筋トレ」が隆盛となる。筋トレではなく、ポイント稼ぎで施設掃除を行い、付属サービスを活用する高齢者たち。アミューズメント施設も高齢者で賑う。一方、都市部の相談援助機関が嘆くのは、ゴミ屋敷問題の増加。つまり、従来のコミュニティが機能せず、蓋を開ければ的なケースが増加。お金も、社会資源も格差の中にある。

これからの介護ビジネスは、

- ・変化するマーケットをどう読むか
- ・ターゲットを絞り、事業コンセプトを明確化できるか
- ・それを職員に落とし込むリーダーを養成できるか

変化のスピードが速い中で、これをやるのが今後5年の宿題になる

【日々の日記から②】

団体や他者の行動を批判的に評価はするけど、そ

れは自分の指針に沿わないからそう思うだけ。その分、自分の指針に沿った「行動」をしているつもり。逆に私の行動や指針に対する批判もあれば、共感もあるだろう。批判も共感も行動もしない、じゃああなたは何を考えているのか？14歳以下のSNSを禁止する、なんて諸外国の動きも耳にするけど、それは納得できる側面もある。

近年の選挙では、SNS戦略が功を奏したと言われるが、問題の本質はそこではない。SNSを通じて拡散されるのは、「誰が正しい」「誰が悪い」という二者対立構造。アメリカ大統領選挙もそうだが、我々は善悪の対立構造が好きだ。正解をそこに求める。最近の授業でも思うが、様々な事例を提示する中で、結局何が正解だったのか、という「答えの正しさ」を問う質問がちらほら。むしろ問わなければならないのは、なぜそれを選んだのか、という背景の理解。しかし、そんな面倒くさいことは考えたくない、正しいものを知りたい、社会は複雑化するが故に単純化される構図だなあ。

【日々の日記から③】

ネゴシエーション

クライアントであれ、他機関であれ、ケアマネに備わっていなければならない技術。交渉は準備段階から始まる。双方の利益と価値を確認し、起こり得る感情面のコンフリクトを予測。

互いの留保価値を知り、ZOPAを設定。ここが分かってないから、相手に与える選択肢は多い方がよいと勘違いしているケアマネも多い。難しいケースであるほど、そこは戦略的でなければならない。そして、懐刀となるBATNAをどのタイミングで抜くか。クライアントファーストも良いが、良い顔していても問題解決は遠のくばかり。常に選択をしていかないと、物事は前に進まない。「だったら家で介護されますか？」老健相談員時代の最後の殺し文句。冷たいと言われようが、誰かが

譲歩されて優遇されることで、別の誰かが不利益を被っている。福祉の優しさってそこじゃないでしょ。

2024 年の出生者数は 70 万人を割る見込み。80 万人ショックから僅か 2 年。100 万人を割ってから 8 年。止まらない少子化社会。異次元の少子化対策と言っても、もし効果が出たとしても 2 世代後から。働き方改革を進めても、慢性的な人手不足により困難な側面は強い。

歳を重ねると、依存先（アウトプット）は多様である方が良い。趣味でも、人でも、仕事でも。加齢と共に失うものは多いのだから。高齢者の生活の充実度は、それによって随分違う。

暑かったり、寒かったり、季節変わりはイヌも風邪を引くらしい。日曜だからか、動物病院も大盛況。中高年の飼い主が目立つのは、新しい家族の在り方を反映してる。3 人の幼子とペットを連れた母。当然、待ち時間に耐えきれず子供はグズリ出す。度々叱責しなければならない母も大変だ。しかし、他人の叱責を聞いている多数派の中高年は居心地も悪くなる。子育て親子が多数派なら空気も変わっただろう。社会はこんなふうになっっていく。

2024.11.25 米津達也